

全国農業

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

新聞

2026年(令和8年)

1月16日 金曜日
月4回金曜日発行

首都圏

これで勝負!

大消費地にいどむ

首都圏農業

160

市川三郷町 渡邊千雪さん

【山梨】「無事今シーズンの『大塚にんじん』の出荷を終えることができた」と語るのは、市川三郷町でスイートコーン60アと大塚にんじん20アを栽培し、同町農業委員会会長やJA山梨みらいの大塚にんじん部会長の務める渡邊千雪さんだ。

大塚にんじんは「のっぺい」と呼ばれる作土が深く、肥沃な大塚地区で

江戸後期から栽培されて

いるニンジンで、約80

120センチほどの驚異的な

長さが特徴。また、栄養

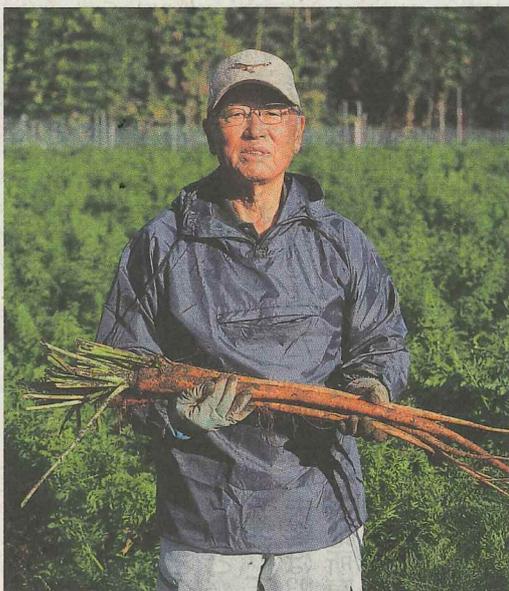
価が高く味も濃厚なた

め、ニンジン特有の甘み

も堪能できる。

長さが大きな特徴のた

め、収穫が難しい。ま



①渡邊さん、②大塚にんじんのジャム

た、途中からタコの足のようになるものが多く、廃棄している状況を打破できないか悩んでいたところ、全国の特産物の加

た、途中からタコの足のようになるものが多く、廃棄している状況を打破できないか悩んでいたところ、全国の特産物の加

工品の販売などを手がける香川県の小豆島にある(旬井上誠耕園からジャムの提案があり、販売が決

定した。商品は都内の有

「大塚にんじん」のおいしさ伝え

名百貨店でも販売され、人気は上々。
渡邊さんは「まずは規格に合ったニンジンを収穫することが重要。しかしどうしても規格に合わないものも出てしまう。そうしたものが加工品として新たな付加価値で販売されることはとても良いこと。商品をきっかけに全国の人に大塚にんじんのおいしさが伝わればうれしい」と語る。

